



業種
その他

導入部署・部門
事務局

導入前の課題

- ・受験者が回を追うごとに“倍々”で増加し、危機感を抱いていた
- ・願書請求の対応に迫られて、遅くまで残業することに
- ・正確な運営をしなければならないが、ノウハウがない

導入後の成果

- ・試験運営がしっかりしているため、評判を呼ぶことに
- ・次々と業務を任せることができ、業務負担が激減
- ・『一緒にやる』ことが大前提で、なくてはならない存在になった

受験者が急増しても 安定した試験運営で「もはや“なくてはならない存在”に」

1999年からはじまった『食生活アドバイザー®』の検定。年に2回開催され、2001年までは1回の受験者が1000人に満たない数でした。しかし食品偽装に関する事件が起きると関心は高まり、書籍などで紹介されるとさらに話題を呼んで受験者が増えていきました。

竹内様は、検定の立ち上げから事務処理、会場手配、試験問題の立案などすべてを実施されてきました。体制としても現・事務局長の寺嶋様とアルバイトを含めた3人だけで行っており、かなり無理があったといいます。寺嶋様はこう振り返ります。「試験運営ではトラブルが起きないように何とかして対処してました。限られた時間の中で正確にやらなきゃいけないけど、そういった運用のノウハウもなかったんですね」

そんななか、印刷を依頼していた企業から「試験運営であれば、いい会社がありますよ」と紹介してもらったのが、当時の日本アイデックス（現・パーソルビジネスプロセスデザイン）だったのです。

「信頼していた会社からの紹介であれば心配ないだろうと思って、すぐにお申し込みしました」と竹内様。「こういうことできる？って聞いて、できるっていうので『じゃあ、お願いします』っていう感じで。まずは採点業務からやってもらいましたね」と速やかに委託を進めていったようです。



一般社団法人 FLA ネットワーク協会
会長
竹内 様

事務局長の寺嶋様も次のように言います。「その間も順調に受験者数が増えていたということもありましたが、うちの方には対応できる体制がありませんでした。だから、それを備えている日本アイデックスさんをお願いしていこうと思いましたね」

当時の日本アイデックスの『検定事業部』では、様々な資格の検定試験をアウトソーシングで受託していました。そのため、試験運営のノウハウも豊富にあったのです。

採点業務からスタートして3年間ほど、少しずつ委託する業務を増やしていったFLAネットワーク協会様。具体的な依頼内容について、稲葉様は「うちがやっているのは願書請求から受験の申し込みまでです。そこから先はすべてパーソルビジネスプロセスデザインさんをお願いしてる感じですね」と説明してくださいました。



一般社団法人 FLA ネットワーク協会
主任
稲葉 様

その後の効果として竹内様は次のように語ります。「全体的にパーソルビジネスプロセスデザインさんの受験運営がしっかりしているので、試験としての評判もよくなるんですよ。そうすると、人が人を呼ぶ形で受験者も増えていきました」

知名度も一気に上昇した『食生活アドバイザー®』の検定。そうすると、「運営を任せて欲しい」という企業の売り込みも増えたようです。「うちにもだいたい引き合いがありましたよ。『それ、やらせてください』って。でも、もう他社には全く目もくれずにきましたね」と寺嶋様は言いぎります。



一般社団法人 FLA ネットワーク協会
事務局長
寺嶋 様

稲葉様は次のようにコメントくださいました。「いろんな業者さんと付き合いがありますけど、パーソルビジネスプロセスデザインさんは圧倒的にレスポンスが早いんですよ。あと、情報共有も徹底されているので、欲しかった情報が的確にもらえます」

その言葉を受けて寺嶋様も「ほんと、対処が早いっていうのは間違いないですね。検定っていろんな予期しないことも起きるんですけど、お陰様でトラブルになったことがありません。いろんな細かいところにまで非常に神経を配ってくれているからですね。マニュアルを見てもよくできていますから」と称賛してくださいました。

そして最後には「今となってはもうなくてはならない存在ですよ。もう『一緒にやる』ってことが大前提になっていますよ」と寺嶋様は笑顔で語ってくださいました。

